

特集 ディーラーモータースポーツ

確かな価値「走る楽しさ」

接点づくり、採用支援、人材育成 広くユーザーに発信



日常業務では得られぬスキル
ディーラーがモータースポーツに関わる形態は多岐にわたる。「スーパーGT」や「スーパー耐久」といった国内屈指の人気を誇るレースに自前のレーシングチームで参戦するディーラーもあれば、ワンメイクレース「86/BRZカップ」や「ヤリスカップ」といった参加型レースに参戦するディーラーもある。地域に根差すディーラー



ーとしてレースに参戦することは、自社ブランドの獲得だけではなく、その地域へ自社ブランドを浸透させる宣伝にもつながっている。その中には、ピットワークで自地域のご当地キャラクターと共に魅力を発信するといったケースも出てきている。

多様なモータースポーツ活動

持続的な成長のカギにも

一方、レースに参戦するだけではなく、オーナー向けの走行会や親子向けのレーシングカー整備体験、eモータースポーツのイベントなど幅広い層に向けたイベントを各社が展開。走行会では「走る楽しさ」に加えて自分の車の性能を把握する場になることを狙った企画が多い。また、親子向けのイベントでは、将来の車ファンづくりだけでなく、メカニックのイメージアップを図る狙いもある。

モータースポーツ活動は人材確保の面でも大きな効果が見込まれる。加えてタイムスケジュールを意識する必要がある。販売店の現場に戻った際、「スキルと時間意識が高まった」といった声が上がるとも貴重な研修の場としても有効だ。また、レースで得た知識や体験をセールストークとして生かして、ユーザーとの関係構築や信頼獲得につながるというといった意見も聞かれる。



レース観戦ツアー再開

トヨタモビリティ東京



トヨタモビリティ東京（T.M.東京、赤尾克巳社長）は、モータースポーツの魅力を伝え、ファンを増やす活動に注力している。6月20日に富士スピードウェイ（静岡県小山町）で行われたワンメイクレース「ヤリスカップ2026関東シリーズ第2戦」にユーザー35人を招き、レース観戦ツアーを行った。

同社は、2019年から同様のイベントを開催している。一時はコロナ禍の影響で中断していた時期もあったが、

ユーザー招待 肌で臨場感を感じて



ったが、25年から再開した。GR Garage部の戸田隆二氏は「一番の目的は、ファンを拡大することにある」と話す。今回参加者募集にあたってはGRガレージを利用するユーザーだけでなく、同社のトヨタやレクサス店舗のユーザーにも周知した。

当日は、パドックツアーやタイヤ交換の見学、プロドライバーによるレース解説などを実施した。中でもT.M.東京の参戦車両に搭載したオンボードカメラの映像をリアルタイムで中継する初の試みが好評を博し、参加者はレースの臨場感を体感した。

同社は今後もこうした体験型イベントを通じて、モータースポーツファンの裾野拡大につなげる考えだ。

GR86/BRZカップ参戦4年目



社内外とも着々と成果

東京スバル



東京スバル（宮澤和彦社長）は、ワンメイクレース「GR86/BRZカップ」への参戦から4年目を迎え、社内外で着々と成果が出始めている。かつては各々で取り組みに対する熱量に違いがあったものの、3年ほど前に全社員でレースに参戦する意義や価値について再認識した。現在では、チーム・東京スバルが一丸となり、本部と各店舗が連携してレース活動を盛り上げている。

同社は、「東京スバルのファンづくり」「メカニックの人材育成」「優秀なメカニックの人材確保」の3つの柱を掲げ、社内外ともに着々と成果を出している。総監督でもある宮澤社長が東京スバルチームを率い、全社一丸となってシリーズ優勝の座を狙う。

最高峰レース参戦やイベント展開

埼玉トヨペット

en Brave（埼玉GB）とGr Garage（さいたま市岩槻区）の連携を通じ、モータースポーツ（MS）の多面的な魅力発信に挑戦している。また、地域に根差すディラーチームとして埼玉県の活性化に加え、人材育成にも取り組んでいる。同社は、2013年に「Green Brave」を結成し、活動方針に「多くの人たちにクルマの楽しさを伝える」「パドマックで一番ファンサービスをやるチームを目指す」「サービセンジニアと共にレースを戦う」を掲げてきた。

埼玉GBは2026シーズン、国内最高峰の「スー

埼玉GBとGR連携
地域に根差して

埼玉GBとGR
Garage連携 地域に根差して



「スーパードラッグ」に参戦。両カテゴリーのマシンのルーフには埼玉県のマスコット「さいたまっちゃん」が、トヨタのイメージキャラクター「さくらん」があしらわれている。

また、ビットウオークなどを通じて全国のサーキットで埼玉県の魅力を発信。さらに、過去に使用したレース車両を展示するなどして地域のイベントにも参加し、埼玉県を盛り上げている。

GR Garage 浦和美園は、主宰する「GR Garage 浦和美園 CAMP」で「トヨタガズーレーシング GR86 / BRZ カップ」に参戦する2人のドライバーをサポート。また、埼玉GBと連携し、幅広い層に向けたイベントを展開している。2026年4月にはGR Garage

ge浦和美園を単独店舗として運営をスタート。同店の体制を刷新させ、MS活動と連動したGR車両の魅力発信と販売の強化を図る。青柳商店長は「独自に体験価値をユーザーに提供できる店舗を目指していくと共に、GR車両の全社的な販売方向上にも寄与していきたい」と話す。

同社のMS活動では、レスマシンのメンテナンスなどチーム運営に関わることを全てを社内で実施。参戦する全レースに店舗のサービスマンが参加し、その総数は年間で50人を超え、そのおかげで得た知見がスキルおよび時間意識の向上につながっていると社内から評判だ。また、体験談を話せることがユーザーとの関係構築に生かされているという。

※写真提供：埼玉トヨペット(株)

※写真提供 埼玉県トヨタ
ット(株)



ニユル耐久にスタッフ

埼玉スバル



ニルブルクリンク24時間耐久レースでの熊谷さん(©STI)

埼玉スバル(吉澤裕社長)は「モータースポーツに挑戦する店舗スタッフを全力でサポートしている。スバルが2008年から参戦する「ニュルブルクリンク24時間耐久レース」で、これまで5人の埼玉スバルのスタッフがレースメカニックに

挑戦。2026年5月14日から17日にかけて開催された第54回大会には大宮店の熊谷龍司さんが参加した。自身4度目の挑戦で、全国各地のディーラーが参加する選抜試験を通過した熊谷さん。「周りの方々への感謝の気持ちでいっぱい」

熊谷龍司さん 4度目の挑戦で試験パス



なった」と結果を知った時の心境を明かす。レースではビットイン時のタイヤ交換や下回り点検などを経験。SP4Tクラスで2年ぶり2回目の優勝を果たした同大会を「世界中のスーパーファンと喜びを分かち合う中で、ブランドの強さを再認識した」と振り返る。

同社ではこのほか、2001年に結成した「ファルコレーシングチーム」でワンメイクレースに挑戦している。1年間でレースメカニックとして約10人が参加。また、希望すればドライバーにも挑戦することが可能だ。



D1GPチームのメインスポンサー



術を競うD1クランプリシリーズでは「俺だっ!」レーシング」のメインスポンサーを務めるとともに、店舗で活躍する整備士をサポートメカニックとしてレース現場へ派遣。限られた時間の中で求められる正確な整備や迅速な判断を経験することで、高度な技術力や対

ウエイ
ンズトヨ
タ神奈川
(宮原淳
二社長)
は、ドリ
フト競技
とeモ
タースポ
ーツのつ
つを柱
に、人財
育成とク
ルマファ
ンづくり
に取り組
んでいる
。ドリ
フトの技

技術力や対応力磨く



く磨き対応力や

クルマの楽しさを発信

を通じて「クルマの楽しさ」を発信する神奈川トヨタ（安藤栄一社長）。レースで培ったノウハウを生かして、車のカスタマイズや、運転の楽しさを発信する拠点「GRガレージマスター」

ワン・東名川崎」を統括するのがマスターワン事業推進部の横田浩之部長。GR86／BRZカップのチーム監督を経験した後、昨年10月に部長に就任。またGAZOO Racing Companyから全国に



イベントなどを通じてファンづくり

「モータースポーツを通じてクルマのファンづくりを力を入れている」（横田部長）とし、これまで子ども向けイベントやGR86／BRZカップの富士大会にお客さまを招待し、モ-



神奈川トヨタ

タースポーツの臨場感を現地でも体感できる観戦会などを実施した。

また同時に進めているのが社内のファンを増やす活動だ。「GRガレージ」だけではなくすべてのお客様にモータースポーツの楽しさを伝えきれない」（同）ことから今後、社内のファンを増やし、これまで以上にお客様がクルマのファンになる体制を整えていくとしている。

極限状態の貴重な現場体験を生かし

トヨタモビリティ滋賀



トヨタモビリティ滋賀
（小澤伸之社長）が、モータースポーツ活動に取り組み最大の意義は、日常のサービス業務への還元だ。例えば、レースでの速度不調

日常のサービスに還元



トヨタモビリティ滋賀
（小澤伸之社長）が、モータースポーツ活動に取り組み最大の意義は、日常のサービス業務への還元だ。例えば、レースでの速度不調

大阪トヨペットグループ

プロのテクニック助言



大阪トヨペットグループ
（OTG、横山昭一郎代表）は、レース活動で得たノウハウを生かし、サーキットでの観戦ツアーや、レース参戦を希望する顧客のサポートなど、クルマファンの拡大に取り組んでいる。加えて今後は管理顧客を対象とする「ドライビングレッスン」を開催し、モータースポーツを軸とするクルマファンづくりをさらに加速する。

初のドライビングレッスンを開催

6月に泉佐野フェニックスで開催した。ドライバの協賛一選手のほか、同社のモータースポーツチーム「OTGモータースポーツ」のドライバーが講師を務め、フルブレーキやスラロームのテクニックをアドバイス。また、プロレーサーが運転する車両の同乗体験なども行い、公道では味わえない走行性能を体感できる機会とした。

同チームドライバーの小河諒選手が解説を聞きながら観戦を楽しめる特別感を提供した。今期からはさらに、顧客のレース参戦についてもサポートを強化する方針だ。

昨年に続き「奥伊吹クルマフェス」の開催も予定するなど、多岐にわたる活動でクルマの魅力を発信する。



レース現場に帯同して

ネットトヨタ岡山



「正確さ」「迅速さ」緊迫の世界で体験

ネットトヨタ岡山（石井敦浩社長）は、2021年から「スーパーGT」500クラスに参戦する「TGR TEAM Australia」の岡山国際サーキットでの開幕戦のサポートとなり、26年で6シーズンを迎えた。23年からは同社の整備士がチームに帯同し、レースの現場でウインドーやホイールの汚れの拭き取りといったサポートを通じてさまざまな学びを得



ネットトヨタ岡山（石井敦浩社長）は、2021年から「スーパーGT」500クラスに参戦する「TGR TEAM Australia」の岡山国際サーキットでの開幕戦のサポートとなり、26年で6シーズンを迎えた。23年からは同社の整備士がチームに帯同し、レースの現場でウインドーやホイールの汚れの拭き取りといったサポートを通じてさまざまな学びを得

岡山トヨペット

スーパーGTなど5カテゴリーに参戦



速度を芸術に昇華する

岡山トヨペットの社内レーシングチームとして発足し、昨年4月に法人として独立したKtunes Racing（Ktunes es、末長一範社長、岡山市北区）は、同社（チーム）名には「倉敷から世界へ、モータースポーツの魅力」を、チューンする」という思いが込められ、「チームスタッフのスキル向上」と

「モータースポーツとクルマのファンづくり」を目的に活動している。2026年シーズンは、「速度を芸術に昇華する」との思いを込めた「SPEED ART」を継続してコンセプトに掲げ、4月に岡山国際サーキット（岡山県美作市）で開催した「スーパーGT」GT300クラスをはじめ、「SRO